

伊東一夫編

藏書誌

国書刊行会

いとう かずお

伊東 一夫

1914 長野県生。

1940 東洋大学文学部卒。

現在 東洋大学文学部教授。

専攻 近代文芸思潮史。

主編著

「赤彦の人と芸術」,「近代日本文学思潮史序説」

「島崎藤村研究」,「島崎藤村事典」,「藤村における旅」(共著)

現住所 武蔵野市桜堤公団78-3 (0422-52-9256)

藤村書誌 — 普及版 —

昭和48年9月25日 印刷

昭和48年10月15日 発行

定価 6,500円

著作権者の
申合せにより
検印省略

編者 伊東一夫

発行者 佐藤今朝夫

編集・制作 竹内淳夫

東京都豊島区巢鴨3-5-18

発行所 株式会社 国書刊行会

電話 (917) 8287(代) 振替・東京65209

印刷 セイユウ写真印刷(株)

製本 青木製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

は し が き

生活を簡素にひきしめることによって濫作をつつし、一作一作に精魂を傾けた文学者として、藤村は芸術家らしい純粹性をまもり通した稀有な存在である。このような生き方は、日本の生活環境においては、きわめて困難なことであつた。その難さを克服して、作品をなした彼の不屈の精進は、驚嘆はもとより、羨望にさえ価するといわれていた。芸術と生活との一致を、一糸乱れず行ない得て、破滅をまぬがれたのみでなく、一代にして多くの問題作・傑作を残すことができた理由は、種々これをあげることができらうであらう。

もし、そのうちの重要な一つをとらば、私はためらうことなく、彼のあの学芸に対する熾烈な愛と、その著作の一つ一つにこめた深い思いとを指摘したいと思う。彼にあつては、妻子に注ぐと同じ、情愛がそのまま、著作のすみずみにまでおよんでいた。「緑蔭叢書」「処女地」「藤村パンフレット」「定本藤村文庫」などはもとより、装幀・挿画において、竹久夢二との熱意あふれる合作ともいい得る「藤村読本」（全六巻）にいたるまで、作品におけると同じく、彼はいかにその著作にこまやかな眼差を注いだことであらうか。読者への親切と絶えざる配慮を旨としながらも、その芸術を著作にゆだねるにあたって、いかに痛烈な自己主張を、ひそかに試みていたことであらう。

生誕百年を迎え、藤村の文学の全業績を「藤村事典」に集約した私は、著作の面から考察した文学者藤

村のプロフィールとその生涯をとりまとめ、これを事典の姉妹篇である「書誌」として刊行することは、久しい以前からの念願であつた。先駆的な労作である石川巖氏編の「藤村書誌」（昭和十五年刊）を継承し、これを完成させることが、自分に課せられた大きな責務であると考えていた。同時に近代文学研究においても、書誌的な研究の意義の深さを、あわせて強調したいというささやかな訴えをも用意していたのである。

本書は、いわゆる書誌学的文献学的研究だけを目的としたものではなく、著作を中心として、ひろく藤村の文学の理解に寄与しようとする試みであつて、完璧を望むというよりもむしろ、今後の考察や鑑賞のための階梯たろうとするものである。

本書刊行の意義を認められ、編纂その他について、有益な御指示と御協力をいただいた島崎家に対して、衷心より感謝の意を表する。

昭和四十八年九月

伊 東 一 夫

口 絵
はしがき

第一部 著作編……………

カラー図版 3

一、詩 19

二、小説 51

三、童話・読物 95

四、紀行 127

五、随想・評論 157

六、雑誌・かるた 173

七、藤村編集による選集・著作集 179

八、他の人々による選集・著作集 213

九、藤村叢書・全集 237

第二部 関係著作編……………

一、主要作品掲載雑誌 269

二、藤村序・跋の掲載書目(カラー図版入り) 279

第三部 遺墨・照影……………

一、原稿 289

二、手跡(1) 295

三、手跡(2) 299

四、手跡(3) (「藤村詩集」より) 303

五、照影 305

六、大磯の書齋（カラー図版） 307

第四部 雑纂

一、著作に掲載の口絵・挿画集 311

二、近親者・交友の照影・手跡・作品 319

三、『家』に登場する主要人物の手跡 325

四、『夜明け前』に登場する主要人物の手跡 333

五、藤村文学の風土・遺跡 351（カラー図版 353）

第五部 資料編

一、藤村をめぐる回想 431

有島生馬 433 / 井出柳子 435 / 大山澄太 437 / 織田正信 442 / 勝本清一郎 446

/ 小山敬三 447 / 斎藤 勇 449 / 島崎藤助 451 / 鈴木七子 458 / 鷹野つぎ 460

/ 所 三男 476 / 中島芳子 478 / 早坂礼吾 481 / 林 勇 485 / 松下英麿 487

/ 宮口しづえ 493 / 安田道夫 496 / 山崎 斌 498 / 和辻照 503 / 島崎静子 511

二、藤村についての評論 517

伊東一夫 519 / 北小路健 536 / 斎藤清衛 547 / 笹渕友一 550 / 瀬沼茂樹 554

/ 土居光知 560 / 平野謙 564 / 三好行雄 580 / 務台理作 587 / 矢野峰人 589

三、年譜 597

四、参考文献 652

あとがき

総索引

第一部
著作編



(四 版)



(初 版)



(五 版)



(七 版)



(三 版)

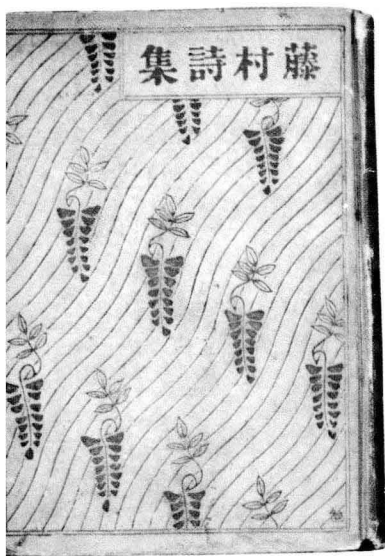


(初 版)



(再 版)





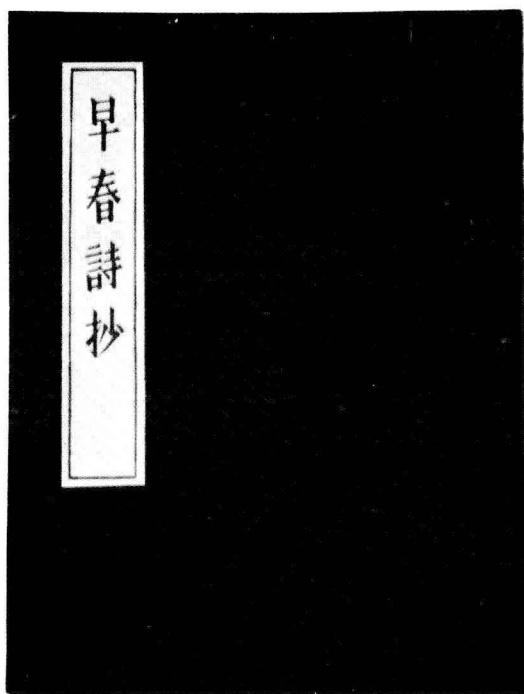
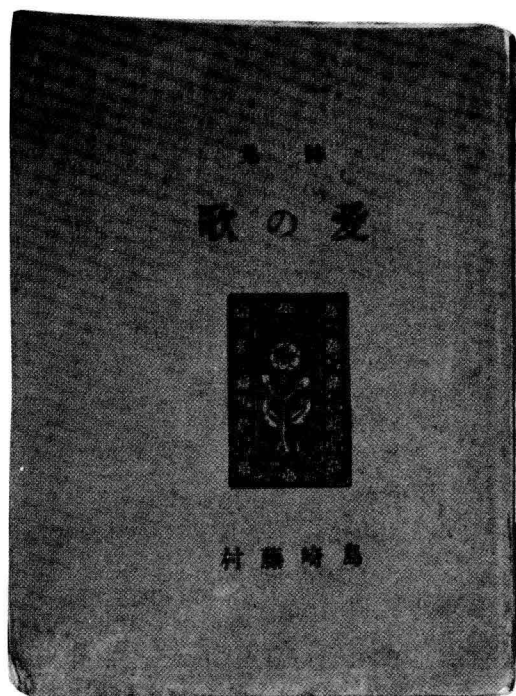
(合本版)

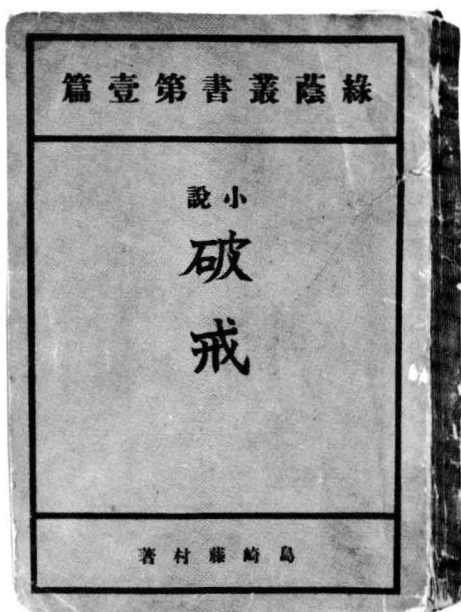
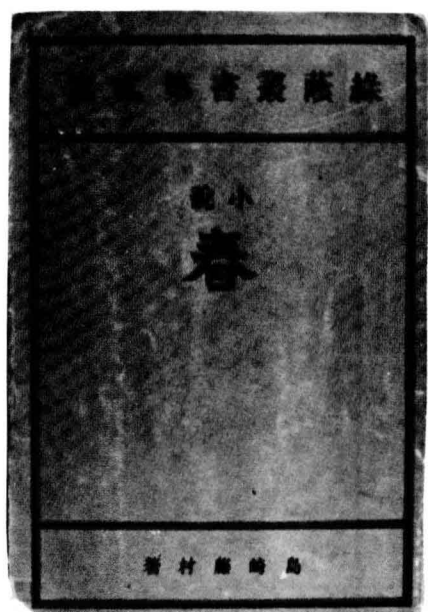


(改訂版)



(改刷版)





外装紙 (ふくろ)



(再 版)



(初 版)

新生

金本金一冊



島崎藤村著

島崎藤村著

小説

微風

島崎藤村著



思は十夜は指
ひ上げた櫻の
實を覗いて見
てお伽話の情
調を味つたそ
れが若い日の
幸福のしるし
といふ風に想
像して見だ

櫻の實の熟する時 藤村著

小説



櫻の實の熟する時

島崎藤村著

書一全

東京
金田信
日丁四通區橋本日

